



## 自己有用感の育成に繋げる周囲の眼差し

「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」という言葉があります。これは、「なすことによって学ぶ」という特別活動を学級経営の基盤に据えてきた私の教育理念とも合致します。しかし、この「ほめる」という言葉には、捉え方にやや注意が必要となってきます。

「ほめる」という行為は、ほめる(自分)側に基準があり、自分の基準以上だとほめ、自分の基準以下だと叱責に繋がるのです。

一方で、「認める」という行為は、認められる(相手)側に基準があります。「当番活動を率先して頑張ってくれたね。」「雑巾をそっと掛けてくれたね。」または、相手の目標に対する頑張り度など相手の具体的な姿を認めるのです。



国立教育政策研究所の生徒指導リーフによると、「日本では『自己有用感』の育成を目指す方が適当と言える」と明記されています。自己有用感は、「誰かの役に立った、誰かに喜んでもらえたなど、相手の存在なしには生まれてこない感情なのです。」

本校でも、道徳教育に取り組み、自己有用感の育成を目指しています。子供たちの心や行動の変容を認めるために、道徳の内容項目を「心のパズル」としてわかりやすく示し、共通の評価ツールとしています。この「心のパズル」ですが、2018年に開発し、口コミでその活用が広がっています。その結果、子供たちの自己有用感が伸びたという報告を受けています。さらに、自己有用感の伸びは、子供たちの学習に取り組む意欲も高めています。

前述した、言葉には続きがあります。「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らず」これは、まさしく自己有用感の育成を目指した言葉なのです。

自己有用感は、人が生きていく上で、決して揺らぐことのない基盤となるものです。子供を見つめる周囲の大人や子供たちの眼差しが問われてくるのだと思います。だからこそ同じ基準で見つめることのできる「心のパズル」が重要になってくるのです。

## 台風4号 温帯低気圧に変わる!

5日朝、長崎県佐世保市付近に上陸した台風4号は、午前9時に温帯低気圧に変わりました。しかし、引き続き雨風等には注意が必要です。天気予報など、情報をこまめに収集し、今後の生活に活かしていきましょう!